

「おじちゃん先生の思い出」

卒園児 小学六年生

んだ挙げ句、かるたを持つて行つて遊んであげようと考え、カバンに入れて出掛けました。念願通り、かるたで遊んであげられてよかったです。園の子ども達が「抱っこして。」「一緒に給食食べよう。」お昼寝の時「トントンして。」と言つてあまえてきて、みんな可愛かったそうです。家ではいつまでもあまえん坊でわがままなア莉沙ですが、二日間お世話になつて、幼い子のお世話をして何かを感じたのか、わがままが少なくなり生活に少し変化が見られました。

二日間、お手伝いに行つて「楽しかったけど、先生の大変さもわかつた」と言つて幼い頃、小羊の先生方に沢山お世話になつた事を二人共改めて感謝しています。そして、ア莉沙は保育士になりたい夢が大きく膨らんだ様です。侑理香も、保育士か幼稚園の先生になるのもいいなあと思つてゐるそうです。

最後になりましたが、いつも温かく迎えてくださる小羊の先生方の心に親子共々感謝しています。貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。それと、小羊つ子のかわいいメッセージを沢山頂きありがとうございました。一人一人の顔を思い浮べながら、ひとつひとつ嬉しそうに見ていました。

(小学六年生、小学四年生)

思い出るのは、いつもやさしい顔をしたおじちゃんです。園児のころ登園して、おじちゃんの姿を見つけ「おーいおじちゃん」と大きな声で呼ぶと、手をふりながら「おはよう。」と言つてくれる、おじちゃんの姿が心に残っています。卒園してからも、毎日、妹をむかえに行っていたので駐車場でおじちゃんの姿を見つけ、かけよると、「お帰りー。」と言つてハイタッチでむかえてくれました。学校での事を話すと、「すごいな、がんばっているな。」と言つていつも、ほめてくれました。

卒園してからの2年間の方がおじちゃんと、たくさん話をしたと思います。

おじちゃんがいなくなつて3年たつけど、「いつでも小羊に帰つておいで」とおじちゃんが呼んでくれているような気がして、ときどきおじやましています。

みんなが集まる場所が完成するのを楽しみにしていました。新しいおじちゃん家に小羊のなつかしさも、求め遊びに行きたいと思います。

卒園児保護者